



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 96 号

R5.2.3

文責 中西 勉



挨拶の大切さ ～受け継がれるその思い～

先日、本校の卒業生で学区にお住まいのAさんから、大変心温まるお手紙をいただきました。Aさんは、1月中旬、スーパーからの帰り道に、自転車に乗った3人の本校の児童に出会われました。その際、Aさんが自転車の児童たちに道を譲ってくださいました。それに対して、本校の児童は3人も明るく元気に「ありがとうございます」と挨拶をしたそうです。Aさんは、3人のその挨拶を大変うれしく思われ、その喜びをどうしても本校に伝えたい一心で筆を執られたとのことでした。



昨日の朝、校内放送による全校集会で、Aさんからいただいた手紙を紹介し、挨拶は人と人の心の距離を近づけるととても大切なものであると、男川っ子に話しました。そして、毎朝6年3組の子供たちが自主的に挨拶運動をしていることにもふれ、自分たちで考えて行動していることを大いに称賛しました。



▲自主的に挨拶運動をする6年3組の子供たち

Aさんのお手紙には、男川小在学当時に青木嘉夫校長先生が、「挨拶をされて嫌になる人はいません。挨拶はとてもうれしいことです。まず、何事も挨拶から始めましょう。一日の始まりが穏やかに進みます。男川小の児童が、挨拶を当たり前に行うことを願っています」とおっしゃられたのが忘れられないと綴られていました。青木校長先生は、私から遡ること13代前の校長先生ですが、昭和の時代も令和の今も、挨拶を重んじる教育は脈々と受け継がれています。本校は、来年度、開校150周年を迎えますが、自分から挨拶ができる男川っ子を育てていくことは、今後ずっと大切にしていきたいです。



【4年】「思春期」について学ぶ

今週1日(水)に、養護教諭の近藤先生が、教育実習の先生と一緒に4年3組で「思春期」についての授業を行いました。子供たちは、「思春期」になると、男の子と女の子の心や体に変化が現れることを、グループでパズルを組み立てる作業を通して分かりやすく学びました。この授業を通して、子供たちは、10歳前後になると、個人差はあるものの、男の子は「精通」を、女の子は「初経」を迎えることを理解しました。この学びは、命の誕生やその尊さを感じる上で、非常に貴重なものです。ご家庭でも、お子さんがこれに関する事について尋ねたり相談したりした際には、お子さんの成長を実感しながら、一緒に話をしていただけると幸いです。



▲「思春期」の体の変化について学ぶ4年生